

鹿児島日英協会主催

英国映画鑑賞会

～英国総督 最後の家～

日時

2018年12月9日(日)
15:05～(受付 14:35～)

場所

マルヤガーデンズ 7F
ガーデンズシネマ
(鹿児島市呉服町6-5)

参加費

1,000円(税込) ※鹿児島日英協会会員は無料

上映後、ご希望の方は交流会にご参加ください(参加費別途実費)

交流会場所:マルヤガーデンズ7Fルーフガーデンレストラン
※コーヒーなどお飲み物400～500円(税込)程度。



1947年、独立前夜、混迷を深める激動のインドを鮮やかに描き出す、監督自身のファミリー・ヒストリーが重なる感動の人間ドラマが誕生!



第二次世界大戦で国力が衰微したイギリスは、植民地インドを去ると決定。主権譲渡のため任命された新総督のマウントバッテン卿。その妻と娘は、首都デリーの仕置る総督官邸にやって来る。大広間と迎賓室がそれぞれ34部屋、食堂は10部屋で、映写室も備えた大邸宅に500人の使用人が仕える。そこでは独立後に統一インドを望む国民会議派と、分離してパキスタを建国したいムスリム連盟によって、連日連夜論議が繰り返された。一方、新総督のもとで働くインド人青年シードと令嬢の秘書アリア、互いに惹かれあふ2人だが、信仰が違いう上に、アリアには幼いときに決められた婚約者がいた……。独立前夜、混迷を深める激動のインドで、歴史に翻弄された人々を鮮やかに描いた感動の人間ドラマ、それが『英国総督最後の家』だ。



チャールズ皇太子の薦めで出会った一冊の本と奇跡の物語に、名優たちが結集

グリンドア・チャータ監督はある日、チャリティパーティを主催する慈善団体の後援者で、マウントバッテン卿の息子にあたるチャールズ皇太子に出会った。彼に大邸宅についての映画を制作中だと話すと、チャールズ皇太子は言った。「マウントバッテン卿の個人秘書を務めていたナレンドラ・スィンフが書いた『The Shadow of the Great Game』という本を、ぜひ読んでほしい。本当は仰が起きていたかが分りますから」と。その夜、奇妙な偶然が起きた。チャータ監督が新作映画の宣伝中に食いに来た伊藤志望の若者、それがなんとナレンドラ・スィンフの息子だったのだ! 彼は「あなたが分離独立についての映画を制作

中である記事を読みました。父の本をぜひ読んでいただきたいのです」と語った。それはチャールズ皇太子から薦められたものと同じ本だった。そして数年後、彼は本作に、父と同じくマウントバッテン卿の個人秘書役で出演することとなった。マウントバッテン卿には『バドヴィンク』シリーズ、人気テレビドラマ『ダウントン・アビー』のヒュー・ボネヴィルが、威厳を減しながら心優しく誠実な総督を演じ、その妻でインドへの深い愛情を示すエリザベス役のシリアン・アンダーソンと共に、自身の祖父父母が分離独立の間に大移動してきたチャータ監督が、「私自身の映画を作りたかった」という強い思いをこめて、



お申込先

jbskagoshima@yahoo.co.jp(事務局) まで

①参加希望者お名前②携帯番号③交流会参加の有無、をご明記ください。

※お席は39席となりますので、先着順で満席になり次第締め切りとします。